



4. ヘルスコミュニケーションウィーク 2023～福島～ 第2回日本医学サイエンスコミュニケーション学会学術集会報告

市川衛

広島大学医学部公衆衛生学、一般社団法人メディカルジャーナリズム勉強会代表理事

【概要】

2023年10月1日、福島市のコラッセふくしまにおいて第2回日本医学サイエンスコミュニケーション学会学術集会が開催された。学術集会のシンポジウムでは、大会長である筆者と加藤和人氏（大阪大学）を座長とし、医学サイエンスコミュニケーションの最新動向と今後の課題が議論された。

【学術集会シンポジウムの内容】

シンポジウムの主要テーマは「SNS、ネット、書籍などを活用した一般の人への医療科学コミュニケーションの最前線」であった。デジタルメディアの進化と医学情報の伝達方法に関する新たな挑戦が紹介され、医学と一般市民とのコミュニケーションの重要性が強調された。

冒頭、座長の市川より、「医学サイエンスコミュニケーション」の領域として以下の三点が示された。

- ・医学者が市民に医学を伝え、市民の医学リテラシーを高めること。
- ・市民が自身の医学に関する考えを医学者に伝え、医学者の社会リテラシーを高めること。
- ・医学者と市民が、医学と社会の関係について共に考察すること。

その後、シンポジストの3名から各自の取り組みについての紹介が行われ、内容に関する総合討論が行われた。忽那賢志氏（大阪大学）は、SNSやインターネット記事を用いた医学情報の効果的な伝達方法について論じた。山本健人氏（北野病院、京都大学）は、書籍「すばらしい人体」を例に挙げ、医学情報の書籍を通じた伝達の有効性について述べた。

若宮翔子氏（奈良先端科学技術大学院大学）は、ツイートの言語的特徴を用いた指向性推定の可能性を探った。

【総括】

この学術集会は、医療科学コミュニケーションの現状と進化を見据えたものであった。特に、SNSやインターネットなどのデジタルメディアの活用が重要なテーマであり、これにより医学情報がより多くの人々にリーチしやすくなっている現状がある。

忽那氏の発表では、SNSとインターネット記事を用いたコミュニケーション戦略の重要性が強調された。彼は、特にインフォデミックの時代における正確で信頼性の高い情報の伝達が必要であると指摘した。

山本氏は、医学情報を一般の人々に伝えるための書籍の有効性に焦点を当てた。専門的な知識を一般の人々にわかりやすく伝える際に、そのいわば「翻訳者」である「編集者」や「出版社」の協力を仰ぐことの重要性を浮き彫りにした。

若宮氏の研究は、SNS上の情報の流れとその影響をより深く理解することの重要性を示唆した。言語的特徴を分析することで、ツイートの指向性や影響力を予測する新たな方法論の可能性が見えた。

これらの発表と議論を通じ、医学と社会の関係を深める、より良い医療コミュニケーションの実現に向けた重要な論点が浮き彫りになった。第2回日本医学サイエンスコミュニケーション学会学術集会は、この分野における今後の研究と実践に関して新たな道を切り開くための、貴重な示唆に溢れる内容であったと言えるであろう。